

# 但馬県民局地域創生戦略(令和2年度～令和6年度)

令和5年3月改定版

## 【改定の経緯】

但馬県民局では、加速度的な人口減少や少子化・高齢化、とりわけ若年世代の域外流出が進む中、地域を取り巻く様々な課題に対して、「但馬県民局地域創生戦略(令和2年度～令和6年度)」を策定し、「山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク」や世界農業遺産認定を目指す「兵庫美方地域の但馬牛システム」、日本遺産「鉱石の道」「北前船」「麒麟獅子舞」など豊かな地域資源を活用した地域活性化に取り組んできた。

この度、当該戦略の中間年を迎えたことから、令和3年度末に策定した地域ビジョンの理念や時代潮流を取り入れた改定を行うこととした。

## 目指す姿

新型コロナウイルスの脅威が否応なしに日々の暮らしや社会のあり方に影響を与えている。このため、SDGs が掲げる誰一人取り残さない社会への変革を意識し、将来の夢や住民同士の対話、小・中・高校生の声をもとにして策定した地域ビジョンの以下の5つの地域像実現を目指す。

- 世界に誇る魅力を継承し、世界に輝く新たな魅力を創造する地域
- 垣根を越えた新たな人との交流・つながりを実現する地域
- 多様性を認め合い、誰もが輝き夢の実現にチャレンジできる地域
- 次代を担う若者や子どもたちがイキイキ育ち暮らす地域
- 生活環境が充実した暮らしやすい地域

## 取組の方向性

地域像実現に向けては、豊かな環境や特色ある農畜水産物、日本遺産等の但馬固有の資源を活用し、「住みたい」・「訪ねたい」地域としての魅力をより高める必要がある。

男女共同参画社会づくりの促進など、全ての人々が個人として尊重され能力を発揮できる環境づくりに取り組むとともに、芸術文化観光専門職大学の開学や豊岡演劇祭の開催、劇団「青年団」の但馬移転等により新たに芽生えた“芸術の力”を生かした地域の強みを最大限に発揮し、地域の方々が地域への誇り、自信、そして愛着を持てる地域づくりを進めることが肝要である。

このような考え方の下、「人口減少対策」、「観光・交流の強化」、「シビックプライドの醸成」の3つを柱とした施策展開を図る。

### 1【住んでみたい・住み続けたい但馬の創造】～緩やかに縮む人口対策～

#### (1) 環境創造・収益に繋がるブランド力強化 地域像

脱炭素社会の実現など新たな課題に対しての環境創造と、コウノトリ育む農法をはじめとする農林水産資源のブランド力向上支援により、地域資源を収益の増加に繋げ、但馬の魅力度向上を目指す。

- (2) 地場産業の育成・強化 地域像  
高度情報化への対応を促し、次世代を担う新規就労者を育成・確保することにより、地場産業の体力向上を目指す。
- (3) 「但馬暮らし」の推進 地域像  
但馬の魅力を情報発信するだけでなく、移住希望者に直接「但馬暮らし」を体験頂くことにより、魅力ある「但馬暮らし」を推進し、定住者の増加を図る。

## 2【行ってみたい・活気に満ちた但馬の構築】～観光・交流の強化～

- (1) 新たなツーリズムの戦略的推進 地域像  
コロナ禍により旅のスタイルが変化したことを受け、但馬の恵まれた自然を活かした各種プロモーションを実施することで、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。
- (2) 地域資源の活用 地域像  
山陰海岸ユネスコ世界ジオパークや日本遺産の認定を受けている鉱石の道など、地域の中で育まれてきた地域資源を活用し、但馬への来訪者の増加、ひいては地域の活性化に繋げる。
- (3) 地域外からのアクセス利便性の向上 地域像  
鉄道利用の促進や高速道路ネットワーク整備の推進により、地域外からのアクセス利便性を向上させ、交流人口の増加を図る。

## 3【誇りたい・ふるさと但馬の再発見】～シビックプライドの醸成～

- (1) 魅力ある地域環境の再認識 地域像  
地域の方々に但馬の魅力ある自然環境を再認識して頂き、将来にわたる環境保全意識の醸成を図る。
- (2) 暮らしの質を高める地域づくり 地域像  
但馬の在住者や出身者の自主的な取組を支援することにより、住民が主体となった地域づくりを推進する。
- (3) イメージアップ推進 地域像  
インフラ整備等や住民の防災意識の向上等、ハード・ソフト両面の基盤づくりを推進し、将来にわたって安心安全に住み続けられる地域を目指す。

### 【目標】

取組の方向性	K P I (事業業績評価指標)	目標
【住んでみたい・ 住み続けたい但馬の創造】 ～緩やかに縮む人口対策～	販売農家数に占める新規就農者の割合	4.8%以上
	人口減に占める社会減の割合	44.1%以下
【行ってみたい・ 活気に満ちた但馬の構築】 ～観光・交流の強化～	1人あたり観光GDP	11.25百万円/人以上
	観光客入込数の増加数	153千人以上
【誇りたい・ ふるさと但馬の再発見】 ～シビックプライドの醸成～	住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合	68.3%以上
	住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、または参加したい人の割合	46.7%以上

## 具体的な取組（主なもの）

### 1 住んでみたい・住み続けたい但馬の創造

#### (1) 環境創造・収益に繋がるブランド力強化

- ・多様化した消費者ニーズへの適応、付加価値・品質の向上、さらには減農薬栽培から無農薬栽培へのシフトを支援するとともに、農作業の省力化を推進し、「育む農法」の取組拡大を図る。
- ・商標権を持ち、高品質で独自性のある但馬特産農産物のPR、生産量の拡大支援等により儲かる農業の実現を図る。
- ・沖合・沿岸の漁場やズワイガニなどの魚種に応じた対策を進めることで、周年にわたり魅力ある但馬産水産物を提供できる体制を整備する。

#### (2) 地場産業の育成・強化

- ・但馬企業の底上げを図るべく商工会議所・商工会との連携を深めるとともに、芸術文化観光専門職大学をはじめ関係団体とも連携し、ウィズコロナ社会を見据えた取組を推進する。
- ・高齢化に伴う農業者の減少が深刻な中、複数の集落組織の連携や個別経営体間の連携を促し、雇用の受け皿となる法人経営体の育成を図るとともに、スマート農業の取組を進めることにより、営農の効率化を図る。
- ・但馬地域への就農の魅力を伝える情報発信コンテンツを充実させるとともに、イベントや但馬内外での就農相談会を開催することにより、地域外からの新規就農者の確保に努める。

#### (3) 「但馬暮らし」の推進

- ・市町と協力しながら但馬の多様な魅力とU・Iターン関連情報を総合的に発信するとともに、交流人口の拡大とU・Iターン等の定住促進を図り、但馬地域へのU・Iターン数を年間400人に増加させる。
- ・移住希望者の個々のニーズに応え、仕事探しへのサポートを強化することにより、希望に応じた短期間の仕事や暮らしの体験機会を提供するなど、但馬への移住を促進する。
- ・但馬の特色ある企業、産業や豊かな自然を活かした但馬暮らし等の魅力を総合的に発信し、若者の地元就職やU・Iターンを促進する。

### 2 行ってみたい・活気に満ちた但馬の構築

#### (1) 新たなツーリズムの戦略的推進

- ・令和5年に予定されている「兵庫デスティネーションキャンペーン（兵庫DC）」を契機に、関係事業者との連携や二次交通の充実に向けた取組を推進し、新たな但馬ブランドを確立する。
- ・但馬地域の魅力的な自然を最大限に活用したサイクルツーリズムを推進するとともに、環境整備の実施やイベント開催を通じ、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

#### (2) 地域資源の活用

- ・来訪者の増加につながる仕組みづくりと、地域が自立して活動を継続するための取組により、地域資源の活用と地域活性化を図る。

- ・ 3府県にまたがるジオエリアにおいて、官民一体となってジオツーリズムを契機とした地域産業の振興、保護保全や教育の推進等を図る事業を総合的に進める。
- (3) 地域外からのアクセス利便性の向上
- ・ 「但馬地域鉄道利便性向上対策アクションプログラム」(平成30年3月策定)を踏まえ、地域が一体となった利用促進・利便性向上を図る。
  - ・ 「基幹道路八連携軸」を構成する北近畿豊岡自動車道(国直轄事業)と山陰近畿自動車道(県事業)の整備を推進する。

### 3 誇りたい・ふるさと但馬の再発見

#### (1) 魅力ある地域環境の再認識

- ・ コウノトリ野生復帰推進計画の基本方針に基づき、野生復帰を推進する。
- ・ ラムサール条約湿地の自然環境を保全するため、高校生が主体となる生物調査や環境保全活動を推進し、次世代の人材を育成する。

#### (2) 暮らしの質を高める地域づくり

- ・ 芸術文化観光専門職大学等と連携した事業を行い、芸術の魅力あふれる地域づくりを推進することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。
- ・ 授業やフィールドワークで但馬を訪れた大学生等の継続的な活動や、自分たちの地域に愛着を持ち、貢献する意欲を有する高校生の活動を支援する。

#### (3) イメージアップ推進

- ・ 但馬の地域資源の魅力をより一層高めるためのインフラ整備等、未来の但馬を支える基盤づくりを推進する。
- ・ 県民生活の安全・安心を確保するため、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策(令和3~7年度)」を活用し、引き続き、総合治水対策、山地防災・土砂災害対策などの風水害対策を推進する。